

# きつぷし 木節遺跡 第7次調査

～平安時代の焼き物の里～

令和6年6月29日 盛岡市遺跡の学び館

## 1 木節遺跡の概要

- ・名称：木節（きつぷし）遺跡（略号 HKP 遺跡コード LE25-2361）
- ・所在：盛岡市上飯岡3地割木節地内 ほか
- ・種別：集落遺跡
- ・時代：古代（平安時代）

木節遺跡は、文化財保護法に基づき、平安時代の集落遺跡として遺跡台帳に登録されています。周辺は、戦後1945～1951年に飯岡野耕地整理組合による耕地整理や復員就業対策の開墾入植がされた際に農道や農地が整備され、現在のような景観になったようです<sup>1</sup>。

今次調査区西方では、昭和44年(1969年)に深耕栽培の土地改良の際に、土器が多数出土したため、都南村教育委員会が発掘調査を行いました。竪穴建物跡1棟が見つかり、平安時代の土師器や須恵器が出土した、と記録されています<sup>2</sup>。

その後、りんご改植、防火水槽整備、下水道整備、農業施設整備などに伴い、盛岡市教育委員会が発掘調査を行い、平安時代の竪穴建物跡などが見つかっています。

また、盛岡工業高校付近では須恵器の窯跡由来の遺物が採集されることが古くから知られており、平安時代の須恵器窯跡が存在する可能性が指摘されていました<sup>3</sup>。

1 都南村 1974『都南村史』 P489

2 都南村 1974『都南村史』 P62

3 相原康二 1987「岩手県の古代窯跡研究の今後」『星川窯跡・発掘調査概報-』紫波町教育委員会

## 2 主な周辺の遺跡（図1）

- ・湯壺遺跡<sup>ゆつぽ</sup>：老人福祉施設建設に伴う発掘調査で、縄文時代晩期の集落跡が見つかった。
- ・飯岡林崎Ⅱ遺跡：圃場整備や県道拡幅に伴う調査で、平安時代・9世紀初頭～前葉の集落跡を調査。須恵器が多く出土し、9世紀前葉頃の役人が使う「円面硯（丸い硯）<sup>えんめんけん すずり</sup>」も出土。
- ・館野前遺跡：寺院建設に伴う調査で、平安時代9世紀後半の集落跡や、江戸時代の礫石経塚（多くの石に仏教経典や梵字を書いて埋めたもの）が出土。
- ・大島遺跡：市場建設に伴い発掘調査した。平安時代9世紀半ば～10世紀の拠点集落。役人が身につけた「石帯具<sup>せきたいぐ</sup>」など出土。
- ・一本松Ⅱ遺跡：市場接続道路建設に伴う調査で、平安時代の集落跡を調査。
- ・アイノ野遺跡：都南村史に須恵器窯跡の可能性が指摘されている。
- ・飯岡館・飯岡山館：戦国時代の飯岡氏の居館跡と伝わる。



図1 木節遺跡の位置と周辺の遺跡分布

## 4 木節遺跡 第7次調査

- ・調査地点 盛岡市上飯岡3地割
- ・調査期間 令和6年6月4日から7月中旬(予定)
- ・調査原因 個人住宅建設関連工事
- ・調査機関 盛岡市教育委員会 遺跡の学び館
- ・見ついている遺構 平安時代：<sup>たてあな</sup>竪穴建物跡1棟、<sup>すえき</sup>須恵器窯跡<sup>かん</sup>関連遺構1ヶ所、<sup>いぶつほうがんそう</sup>遺物包含層1ヶ所
- ・出土している遺物 <sup>すえき</sup>須恵器(坏、<sup>つき</sup>甕または<sup>かめ</sup>広口壺?、<sup>ひろくちつぼ</sup>大甕、<sup>おおがめ</sup>長頸瓶、<sup>ちようけいへい</sup>小型壺)  
<sup>はじき</sup>土師器(坏、高台付坏・両者とも内面黒色処理あり)  
<sup>ようたい</sup>窯体(窯の壁面などが崩れたもの)・・・合計コンテナ約40箱(6/27現在)
- ・遺構遺物の時期 <sup>へいあん</sup>平安時代・約1100年前(9世紀半ばから後半、10世紀前半の2時期か。)

## 5 今次調査で特筆すべきこと

### (1) <sup>たてあな</sup>竪穴建物跡

#### ①特徴

- ・出土土器の特徴から、平安時代・9世紀後半の竪穴建物跡と考えられます。
- ・焼けて廃棄された建物跡です。床面から焼土や炭になった部材(炭化材)が出土。
- ・壁に寄りかかるように炭化材が出土。<sup>たるき</sup>＝垂木の可能性が高い。壁材の可能性も考えられる。
- ・炭化材は、多くは整形された「板材」であり、木を組むための<sup>つぎて</sup>継手または<sup>しぐち</sup>仕口などを加工した材もある。雑木の樹皮をむいただけの丸太材を使用する例が多い竪穴建物の屋根の垂木などに、板材を使用することは珍しい。  
＝ある程度の格式がある建物だった可能性がある。市内で板材を使用した竪穴建物跡の例は、大島遺跡で板材を柱に使用した<sup>ごひらばしら</sup>「五平柱」の例がある。

#### ②今後の調査

- ・床面の施設有無を調査し建物の正確を検討する。たとえば、床面にロクロ穴があれば、土器制作工房といえる。  
※床面からロクロピット(土器製作のための回転台をすえた穴)が見つかりました。(2024年7月8日追記)

### (2) <sup>すえき</sup>須恵器窯跡<sup>かん</sup>関連遺構

#### ①須恵器の窯跡の存在

今次調査区内では、須恵器生産工程で発生するもの(多量のゆがんだり融着したりした須恵器の破片、焼土や炭)が出土。このことから、須恵器を焼いた窯跡が、このすぐそばに存在した可能性が極めて高いと言える。

#### ②市内初・県内最北・調査例の少ない須恵器窯跡調査事例

岩手県内の古代の須恵器窯跡は、奥州市江刺(瀬谷子窯跡群)、北上市相去(葛西檀遺跡など相去窯跡群)、紫波町北田(星川窯跡)、紫波町二日町(杉の上窯跡)などが知られている。

盛岡市内における古代の須恵器窯跡<sup>かん</sup>関連遺構の本発掘調査は初の事例。岩手県内では最北の事例。

#### ③平安時代の焼き物の里・木節 ～古代須恵器流通解明の鍵

これまで、盛岡周辺やそれ以北の平安時代の集落跡から出土する多くの須恵器が、どこで生産され、どのように供給されていたのか、不明だった。今回出土した須恵器の特徴(形や作り方等)を調査し、「木節窯跡」の供給先や、当時の社会状況の一端が明らかになることが期待される。

#### 【用語説明】

- ・遺構：昔の人の営みの痕跡。不動産。 <sup>いぶつ</sup>遺物：昔の人の営みによって残されたもの。 <sup>ほうがんそう</sup>遺物包含層：遺物を含む土層。
- ・古代：飛鳥時代～平安時代。天皇中心とした国家形成期。1400～900年ほど前。
- ・須恵器：1500年ほど前に大陸から伝わったとされる焼き物。工人が<sup>あながま</sup>回転台を使って成形し、<sup>あながま</sup>窖窯で焼成する。青灰色で硬い。
- ・土師器：野焼きで焼成される土器。
- ・<sup>たてあな</sup>竪穴建物：地面を平らに掘くばめ床にし、屋根をかけた建物。縄文時代から使われ、戦前まで「<sup>むろ</sup>室(地下収納庫)」として使われた。  
古代のものは方形で、一辺にカマドが作られた。
- ・遺跡の発掘調査：文化財保護法に基づき、遺跡の範囲で掘削する工事などの際には、教育委員会などに届出が必要。  
国内で実施される遺跡の発掘調査のほとんどは、この届出に伴うもの。



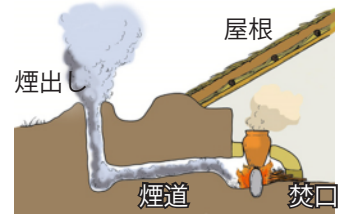
復元された竪穴建物跡  
(志波城古代公園 平安時代初めの兵舎竪穴建物)



志波城古代公園の  
復元竪穴建物跡内のカマド



竪穴建物跡内の想像図



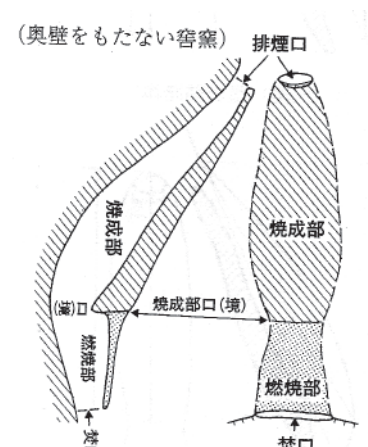
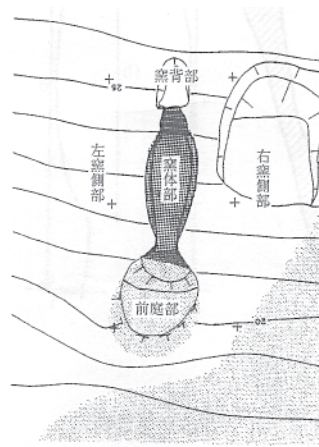
竪穴建物跡内のカマド断面



北上川中流域の窯跡等分布図  
⑬が木節遺跡か。(相原康二 1987 より)



窯場の復元想像図  
(文化庁 2013 『発掘調査のてびき - 各種遺跡調査編 -』に加筆)

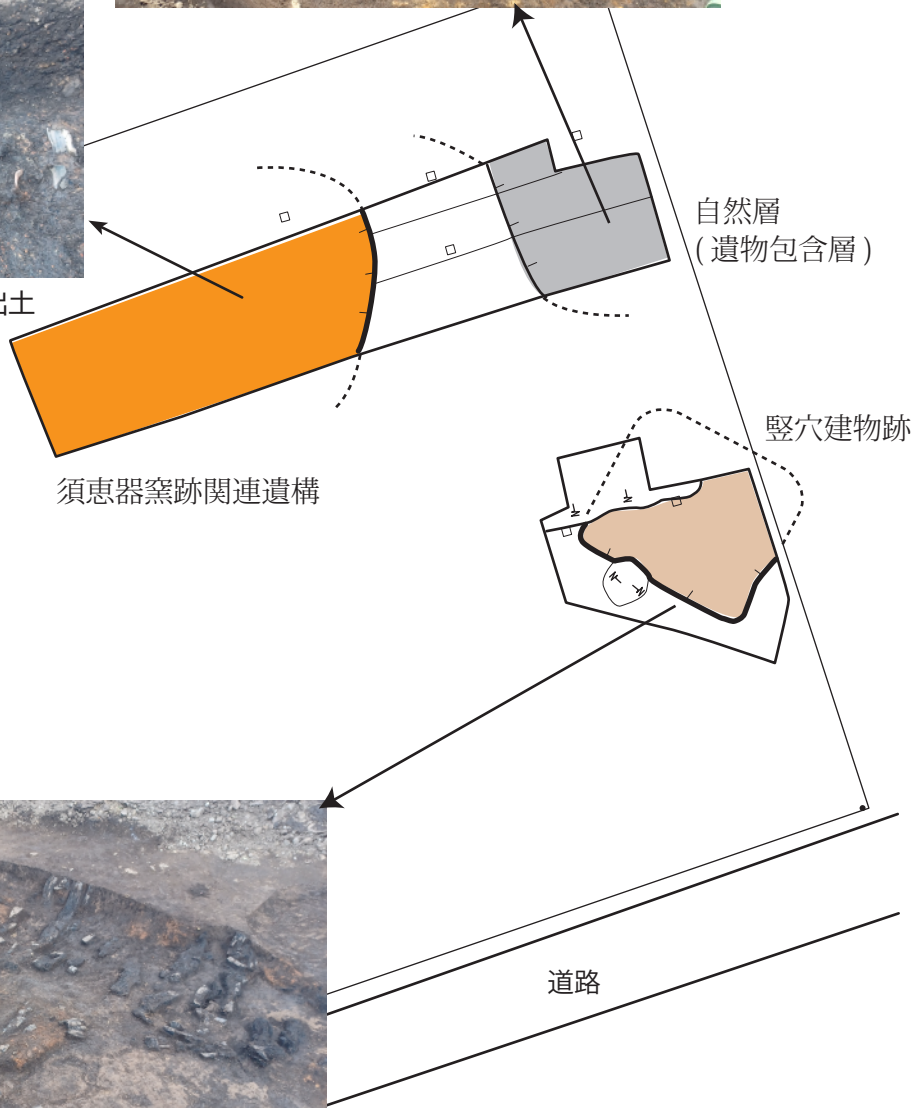


窯外部の名称と位置・須恵器<sup>あながま</sup>窯の部位名称  
(窯跡研究会 編 2020 『古代窯業の基礎研究 - 須恵器窯の技術と系譜 -』より)

遺物包含層から須恵器の破片と石が出土した様子



多量の須恵器や焼土、炭が出土



炭になった部材が出土した竪穴建物跡

0 1:200 10 m

木節遺跡 第7次調査 概略図  
(2024年6月20日現在)

盛岡市遺跡の学び館  
岩手県盛岡市本宮字荒屋13-1  
電話019-635-6600

© 盛岡市遺跡の学び館 2024 禁無断転載